

芸術・スポーツ

keyword

- 美術鑑賞
- 各学校園における造形学習支援



新関 伸也 Shinya Niizeki

教育学部 教授

【プロフィール】

- 専門:美術教育学
- ・岩手大学教育学部特別教科(美術・工芸)教員養成課程卒業
  - ・山形大学大学院教育学研究科修士一修士(教育学)
  - ・元公立中学校教諭
  - ・滋賀大学教育学部助教授を経て教授
  - ・前附属幼稚園園長

【主な社会的活動】

- ・日本教育大学協会全国美術部門副代表
- ・一般社団法人日本美術教育学会理事
- ・美術科教育学会理事
- ・日本色彩教育研究会理事
- ・日本フェノロサ学会事務局長
- ・滋賀県美術教育研究会顧問
- ・滋賀県中学校美術教育連盟研究協力者
- ・文部省検定教科書「中学校美術」著者
- ・滋賀県新生美術館整備推進専門家会議委員

【主な著書】

- ・神林恒道・新関伸也編著『西洋美術101鑑賞ガイドブック』・同『日本美術101鑑賞ガイドブック』三元社
- ・大橋功、新関伸也他『美術概論・新訂版』日本文教出版

【連絡先】

niizeki@edu.shiga-u.ac.jp

【代表的な研究テーマ】

- 美術鑑賞学習の指導及び評価に関する研究
- 幼児造形・図画工作科・美術科の学習活動の改善支援

課題解決に役立つシーズの説明

本研究は、日本美術教育学会研究チーム(代表者:新関伸也)が科研費を獲得し、①ルーブリック評価を活用した美術鑑賞学習の授業モデルを開発し、②国内や国外(米国・中国・台湾・韓国)の研究協力者と共に実践分析的な研究を実施している。今後、これらの成果を③公開研究会や Web サイトで広く周知するとともに、④『ルーブリック評価による美術鑑賞学習のすすめ(仮)』を出版して、評価を軸にした美術鑑賞学習の普及拡大を目的としている。

【ルーブリックによる題材開発】(図1)

図画工作科や美術科において、ルーブリックを中心に据えた鑑賞領域の題材開発によって、授業の目標や評価が明確になるだけでなく、対象学年に適した作品や指導の流れが明確になる。また、指導者の題材開発や省察だけでなく、学習者の学習目標や評価としても活用できる。

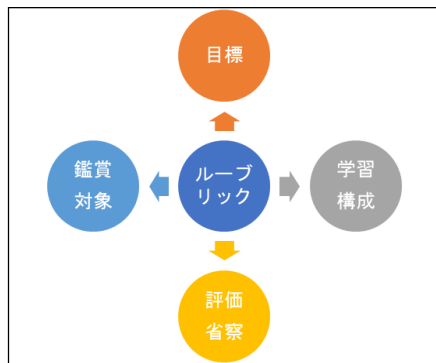


図1. ルーブリックによる題材開発

鑑賞学習ルーブリックガイド

鑑賞の授業を効果的に実施し、鑑賞、野縁し、その質を高めるために、鑑賞学習のキャリアプログラム構築を支援するための資料

日本美術教育学会研究チーム

観点	鑑賞学習ルーブリック			
	レベル1 鑑賞	レベル2 鑑賞	レベル3 鑑賞	レベル4 鑑賞
(A) 鑑賞・鑑賞	作品の主題や題材について、作品にまつわる知識や背景の学習・鑑賞に意図を持って受け取る。資料の鑑賞・鑑賞に意図を持って受け取る。	作品の主題や題材について、作品にまつわる知識や背景の学習・鑑賞に意図を持って受け取る。資料の鑑賞・鑑賞に意図を持って受け取る。	作品の主題や題材について、作品にまつわる知識や背景の学習・鑑賞に意図を持って受け取る。資料の鑑賞・鑑賞に意図を持って受け取る。	作品の主題や題材について、作品にまつわる知識や背景の学習・鑑賞に意図を持って受け取る。資料の鑑賞・鑑賞に意図を持って受け取る。
(B) 作品の主題	作品から捉えられる主題を明らかにする。	作品から捉えられる主題を明らかにする。	作品から捉えられる主題を明らかにする。	作品から捉えられる主題を明らかにする。
(C) 鑑賞対象とその表現	(C-1) 鑑賞・鑑賞	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。
	(C-2) 鑑賞・鑑賞	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。
	(C-3) 鑑賞・鑑賞	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。	作品の構成や表現に込められた意味や特徴を明らかにする。
(D) 表現の手法	(D-1) 鑑賞・鑑賞	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。
	(D-2) 鑑賞・鑑賞	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。	作品が表現の手法にもたらした鑑賞や文化的価値について説明している。
(E) 鑑賞	作品が、鑑賞の考え方や表現の手法や表現の手法に意図を持って受け取る。	作品が、鑑賞の考え方や表現の手法や表現の手法に意図を持って受け取る。	作品が、鑑賞の考え方や表現の手法や表現の手法に意図を持って受け取る。	作品が、鑑賞の考え方や表現の手法や表現の手法に意図を持って受け取る。

図2. 鑑賞学習ルーブリック

【鑑賞ルーブリックの具体的な活用手順】(図2.)

- ①授業をするクラスの分析をし(診断的評価)、課題や学ばせたいことを明らかにする。
- ②「鑑賞学習ルーブリック」を見て、どの観点やレベルを想定するか、おおまかに考える。
- ③作品の選定する(題材観を明らかにする)。
- ④その題材を使って、どの観点を選び、どのレベルを到達目標にするのかを決定する。
- ⑤設定した観点の設定レベルに至るため、授業方法について発想を巡らし、具体的な展開を構想する。(授業実践)
- ⑥授業後の省察を行う中で、成果を確認するとともに、改善点を明らかにし、次の指導の構想(観点、レベル、題材、方法)を練る。以上の①～⑥を繰り返す。

【留意点】

全ての観点を1時間の授業の中で扱うものではなく、本時ではどの観点を扱い、どのレベルを想定するかを授業者が自覚するためのものである。診断的評価、形成的評価、総括的評価を繰り返す中で、どの観点もバランスよく扱い、どのレベルもバランスよく想定するための指針である。レベル1 からレベル4 は、必ずしも年齢に即応しているものではなく、学年や発達に応じて各レベルのパフォーマンスが見られるという考え方である。例えば、観点によっては、幼児が幼児の発達段階の中でレベル4 に至る場合もあり、また高校生がレベル1 の状況を示す場合もある。

企業・自治体へのメッセージ

- ・企業や自治体のリーダーに必要とされる西洋及び日本の美術鑑賞に関するセミナー及び講演を行います。
- ・幼稚園、保育所、小・中・高等学校、美術館等での美術教育に関する研究や研修を継続的に支援します。
- ・美術館の教育活動や各学校園での造形表現・図画工作科・美術科の授業改善に関して共同研究を希望します。